

問1 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。（2025年 岡山公立入試 類似）

- 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた
- 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な家勢力であった物部氏を制圧した
- 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした
- 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した

問2 4世紀から7世紀にかけての朝鮮半島において、北部の高句麗や南東部の新羅と対抗しながら、大和政権と緊密な関係を築いた南西部の国はどこですか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

- 百済
- 新羅
- 高句麗
- 唐

問3 5世紀ごろの朝鮮半島の情勢を説明した文として、当時の勢力図や外交関係に基づいた正しい記述はどれですか。（2018年 岐阜公立入試 類似）

- 朝鮮半島南西部の百済が、高句麗の南下に対抗するため大和政権と交流した。
- 朝鮮半島北部の新羅が、百済を圧迫して日本への文化伝播を独占した。
- 中国大陸の唐が、朝鮮半島南部の伽耶（任那）地域を直接支配した。
- 高句麗が朝鮮半島の南東部を領有し、大和政権に仏教を伝えた。

問4 天智天皇が亡くなった後、その跡継ぎをめぐる672年に起こった、古代における最大の内乱の名称として適切なものはどれですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

- 壬申の乱
- 保元の乱
- 承久の乱
- 応仁の乱

問5 天武天皇が行った国家建設の取り組みにおいて、律令に基づいた政治を支えるために、全ての土地と人民を国家のものとする考え方を何といいますか。（2022年 福岡県公立入試 類似）

- 公地公民
- 墾田永年私財法
- 地租改正
- 版籍奉還

問6 飛鳥時代に聖徳太子（厩戸王）によって建立されたと伝えられ、現存する世界最古の木造建築物群を持つ、奈良県に位置する寺院はどれですか。（2024年 岐阜公立入試 類似）

- 法隆寺
- 東大寺
- 延暦寺
- 興福寺

問7 7世紀初めの日本において、聖徳太子らが「冠位十二階」を定めた背景には、天皇中心の政治を強化しようとする意図がありました。この制度の特徴について述べた文として、正しいものを一つ選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

- 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。
- 豪族の身分を固定化し、その子孫が代々高い地位を継承することを保障した。
- 遣唐使として派遣された留学生の意見を取り入れ、全ての土地と人民を天皇のものとした。
- 役人が職務を行ううえで心構えを説いたもので、儒教や仏教の考え方が取り入れられた。

問8 607年に小野妹子が隋に派遣された際、持参した国書には「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや」という趣旨の一文がありました。このような外交姿勢をとった背景にある、当時の日本（倭国）の目的として適切なものを選びなさい。（2023年 静岡公立入試 類似）

- 中国に対して臣下としての礼を尽くし、国王としての称号と金印を授かること
- 中国の皇帝に軍事的な従属を誓うことで、朝鮮半島への出兵を支援してもらうこと
- 中国と対等な立場での外交関係を築きつつ、高度な政治制度や文化を取り入れること
- 中国の領土の一部を譲り受ける代わりに、日本の特産品を朝貢品として献上すること

問9 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、家柄にこだわらず、個人の才能や功績に応じて役人を登用する新しい仕組みを整えました。603年に定められたこの制度の名称を答えなさい。（2015年 長崎県公立入試 類似）

- 冠位十二階
- 憲法十七条
- 御成敗式目
- 楽市・楽座

問10 7世紀の日本の出来事をまとめた歴史の年表において、聖徳太子が小野妹子らを中国の隋へ派遣したという記述があります。この時、進んだ制度や文化を日本に持ち帰ることを目的として派遣された使節の名称を答えなさい。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

- 遣隋使
- 遣唐使
- 遣明使
- 朝鮮通信使

答え合わせ・解説

問1	答え 1 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問2	答え 1 百済	朝鮮半島の南西部に位置した百済は、北から圧力を強める高句麗や、隣接する新羅との勢力争いの中で、日本の大和政権と結びつきました。この交流を通じて、日本へ仏教や儒教といった当時の先進的な大陸文化が伝わりました。
問3	答え 1 朝鮮半島南西部の百済が、高句麗の南下に対抗するため大和政権と交流した。	5世紀ごろの朝鮮半島では、北部に広大な領土を持つ高句麗が南下政策をとっていました。これに対し、南西部にあった百済は大和政権と連携することで勢力の均衡を図ろうとし、その過程で多くの技術や文化を日本へもたらしました。新羅は南東部、伽耶（任那）は南部に位置していました。
問4	答え 1 壬申の乱	天智天皇の弟である大海人皇子と、その息子である大友皇子が皇位継承をめぐる対立した争いです。この戦いに勝利した大海人皇子は、その後の日本における中央集権体制の確立に大きな役割を果たしました。
問5	答え 1 公地公民	天武天皇から持統天皇の時代にかけて整備された律令国家の根本原則です。それまで豪族が私有していた土地や人民を国家の管理下に置き、戸籍に基づいて人々に田を与える「班田収授法」などを行うための基盤となりました。
問6	答え 1 法隆寺	聖徳太子が建立したと伝えられる法隆寺は、1993年に「法隆寺地域の仏教建造物」として、日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録されました。その西院伽藍は、7世紀後半から8世紀初めにかけて再建されたものと考えられていますが、世界で最も古い木造建築として非常に高い歴史的価値を持っています。
問7	答え 1 個人の才能に応じて十二段階の冠を授けるもので、冠を授かった者一代限りの位とされた。	冠位十二階は、功績があった本人に位（冠）を与える制度であり、その地位は子孫に引き継がれる「世襲」ではありませんでした。家柄に関係なく、実力のある人物を役人として引き立てるこの仕組みは、当時の中国（隋）の制度も参考にされています。また、役人の心構えを説いたものは、同時期に制定された「十七条の憲法」です。
問8	答え 3 中国と対等な立場での外交関係を築きつつ、高度な政治制度や文化を取り入れること	聖徳太子は、当時の中国の皇帝（煬帝）に対して対等な立場で国書を送りました。これは、これまでの中国に従う形式の外交ではなく、日本が独立した国家であることを示しながら、最新の政治体制（律令など）や仏教を主体的に学び、国内の権威を高める狙いがありました。この姿勢は隋側を驚かせましたが、当時の東アジア情勢も影響し、交流は継続されました。
問9	答え 1 冠位十二階	聖徳太子は、それまでの「氏（うじ）」という家柄によって世襲される政治体制を改め、能力のある人物を中央政府の役人として登用するためにこの制度を導入しました。冠の色によって役人の位（ランク）を12段階に分け、儒教の徳目である「仁・礼・信・義・智」などの名称が用いられたことが特徴です。
問10	答え 1 遣隋使	聖徳太子は推古天皇の摂政として、当時中国を統一していた隋の進んだ制度や文化を積極的に取り入れることで、天皇中心の国づくりを進めようとした。この目的のために派遣された使節が遣隋使であり、小野妹子がその代表的な人物として知られています。